

一般社団法人日本テレワーク学会
第28回研究発表大会（亜細亜大学）
全体プログラム

※大会テーマ テレワークの広がり和社会の変化 ～人と地域、働く場のこれからを考える～

大会開催記念シンポジウム

■期日：9月5日（土）14:00～17:40（受付開始13時30分から）

■会場：亜細亜大学 武蔵野キャンパス内 5号館教室 〒180-8629 東京都武蔵野市境5-8

時間	テーマ・講師
14:00～14:10 開催ご挨拶	市川宏雄（大会委員長 明治大学名誉教授） 権丈英子（大会実行委員長 亜細亜大学） ●進行●事務局
14:10～15:10 基調講演	テーマ：テレワークが都市構造に与える影響と未来への展望 講師：猪原龍介様 亜細亜大学 経済学部 教授 （プロフィール） ・京都大学大学院経済学研究科博士課程修了。博士（経済学）。 ・青森公立大学経営経済学部准教授、亜細亜大学経済学部准教授を経て、2023年より現職。専門は空間経済学、都市経済学、地域経済学。 ・都市・地域経済や東京一極集中を主な研究テーマとし、近年はテレワークが都市構造や地域経済に与える影響についても研究している。
15:10～15:20	<休憩時間10分>
15:20～15:50 特別講演1	テーマ：デジタル化が変える行政と働き方（仮題） 講師：市川壱石様 厚生労働省 大臣官房 総括調整官（保険局併任） （プロフィール） ・慶應義塾大学商学部卒業後、厚生労働省に入省。 ・デジタル庁在籍時には、新型コロナワクチン接種記録システム（VRS）や接種証明書システムなど、健康医療分野のデジタルサービスを担当。 ・現在は、厚生労働省において、診療報酬改定DXや審査支払システムの共同開発の推進に携わる。
15:50～16:00	<休憩時間10分>
16:00～16:30 特別講演2	テーマ：「全国へ広げよう、女性活躍の輪～Women in Action～」 講師：松本明子様 東京都参与（女性活躍推進監）（前副知事） （プロフィール） ・東京大学教育学部卒業後、東京都に入庁。 ・下水道局、産業労働局、環境局などで要職を歴任し、2023年に産業労働局次長兼理事（働く女性応援担当）、2024年に環境局長を経て東京都副知事に就任。 ・2026年7月より東京都参与（東京都女性活躍推進監）として、女性活躍の推進をはじめ、誰もが活躍できる社会の実現に向けた施策に取り組んでいる。
16:40～17:40 特別企画	パネルディスカッション テーマ：テレワークの広がり和社会の変化 ～人と地域、働く場のこれからを考える～ パネリスト：猪原龍介 様 / 市川壱石 様 / 松本明子 様 司会進行：権丈英子（亜細亜大学・大会実行委員長）

■9月5日（土）18:00～20:00 **懇親会**

18:00～20:00	会場 亜細亜大学 ASIA PLAZA ※参加費 会員・事前申込み 6,000円 非会員・事前申込み 6,500円 当日参加 7,000円／一人
-------------	--

第 28 回日本テレワーク学会研究発表大会プログラム

テレワークの広がりと社会の変化～人と地域、働く場のこれからを考える～

論文・報告発表

■ 9 月 6 日 (日) 9:00～13:00 ■開催会場 亜細亜大学武蔵野キャンパス内 5号館教室

時間	セッション A	セッション B
08:55～	開始に当たって 発表の手順等のご案内 (事務局 実行委員会)	
09:00～ 09:30	論文●発表者● 蘭 諸栄 (函館大学) ●発表テーマ● 北海道内自治体におけるワーケーション導入状況と課題 —アンケート調査による実態分析— ●進行●三浦拓馬 (日本テレワーク学会 事務局長・理事)	報告●発表者● 室岡裕介 (一般社団法人日本テレワーク協会) ●発表テーマ● バックオフィス業務における「テレワークのボトルネック」に関する一考察 進行●今泉千明 (テレワークコンサルタントオフィス)
09:30～ 10:00	論文●発表者● 國井昭男 (株式会社情報通信総合研究所) ●発表テーマ● (仮) コロナ禍前後における在宅勤務の特質の理解の試み ●進行●三浦拓馬 (日本テレワーク学会 事務局長・理事)	報告●発表者● 石崎真弓 (ザイマックス総研) ●発表テーマ● フレキシブルオフィスサービスの動向について 進行●今泉千明 (テレワークコンサルタントオフィス)
10:00～ 10:30	論文●発表者● 飯村海児・西山敏樹 (東京都市大学大学院) ●発表テーマ● テレワークと他者支援活動の併存に関する研究 —「サポートテレワーク」の概念と適用可能性— ●進行●眞崎昭彦 (眞崎リサーチラボ)	報告●発表者● 城本高輝 (摂南大学) ●発表テーマ● コワーキングスペースを介したテレワーカーと地域社会との関係形成プロセス —利用者への質的調査を通じて— ●進行●木下 巖 (木藤企画)
10:30～ 11:00	論文●発表者● 飯塚 匠 (株式会社メタディオ) ●発表テーマ● テレワーク定着期におけるE-Leadershipとチーム成果 —バーチャル・チーム環境下の組織運営・コミュニケーションに着目して— ●進行●眞崎昭彦 (眞崎リサーチラボ)	報告●発表者● 田澤由利 (テレワークマネジメント) ●発表テーマ● 国の二地域居住推進施策を支えるテレワークの役割 —北海道北見市における長期滞在・空き家活用モデルの実践から— ●進行●木下 巖 (木藤企画)
11:00～ 11:30	論文●発表者● 辺見佳奈子 (大阪商業大学) ●発表テーマ● 在宅勤務頻度と心理的資本がジョブ・クラフティングに与える影響に関する研究 ●進行●眞崎昭彦 (眞崎リサーチラボ)	論文●発表者● 美才治 明則・山崎泰央・猪越 彬・中村幸弘 (株式会社TSUMUGU・一社) 日本テレワーク協会 ●発表テーマ● テレワークの先に問う、価値創出の組織 — AI拡張型SECIモデルと自律的な働き方— ●進行●西山敏樹 (東京都市大学)
11:30～ 12:00	論文●発表者● 宮辻 渉 (広島経済大学) ●発表テーマ● 出社回帰が従業員のワーク・ライフ・バランスを通じて職務パフォーマンスに及ぼす影響 ●進行●中村 仁 (跡見学園女子大学)	論文●発表者● 野口邦夫 (社労士のぐちくにを事務所) ●発表テーマ● テレワークにおける労働契約の具体的な内容の理論について ●進行●西山敏樹 (東京都市大学)
12:00～ 12:30	論文●発表者● 中西穂高 (帝京大学) ●発表テーマ● 生成 AI 時代におけるテレワークの協働のあり方 — Community of Inquiry を分析枠組みとして— ●進行●中村 仁 (跡見学園女子大学)	論文●発表者● 床桜英二・久次米しのぶ (徳島文理大学) ●発表テーマ● 過疎地域におけるサテライトオフィス勤務者の継続意向を規定する要因—徳島県を事例に— ●進行●本多 毅 (愛知大学)
12:30～ 13:00	論文●発表者● 田中 敦 (山梨大学) ●発表テーマ● ふるさと住民登録制度を見据えた関係人口関連政策の変遷と融合 ●進行●野口邦夫 (社労士のぐちくにを事務所)	注) セッション B は 12:30 に終了予定 注) 氏名・敬称略 注) プログラムは発表者または進行担当は、理由を問わず変更になる場合がございます。

大会会場のご案内

亜細亜大学 武蔵野キャンパス内 5号館

- 開催期日 9月5日(土)～6日(日)
- 開催会場 亜細亜大学 武蔵野キャンパス内 5号館 2階会議室(懇親会は ASIA PLAZA)
〒180-8629 東京都武蔵野市境 5-8

- (道順) JR 東京駅から武蔵境駅までは、中央線快速で 30 分強
- ▶JR 中央線武蔵境駅から徒歩で約 12 分
- ▶ムーバスで約 5 分 「ムーバス」は武蔵野市のコミュニティバスです。
5 号館へは、ムーバス「亜細亜大学南門」が最寄りとなります
- ▶小田急バスで約 5 分「桜堤上水端 (hocco)」行で「亜細亜大学北」下車、徒歩 1 分

- ▶ 場所はこちら <https://www.asia-u.ac.jp/information.html>



【大会テーマ】

テレワークの広がりと社会の変化～人と地域、働く場のこれからを考える～

第 28 回日本テレワーク学会研究発表大会
実行委員長 権丈英子（亜細亜大学）

新型コロナという外的ショックは、それまで“できなくはないが広がらなかった”テレワークを、一気に社会に定着させる契機となりました。また、生成 AI をはじめとするデジタル技術の急速な進展も、働き方や組織のあり方に大きな変化をもたらしています。

一方、対面には、単なる情報伝達を超えて、「相手のもとへ足を運ぶ」という行為それ自体に意味を見いだす社会的規範が存在しており、それがオンライン化の進展を抑制していた側面もあります。その後は、コミュニケーションや組織運営の観点から対面の価値が再認識され、対面重視への揺り戻しもみられています。

本大会では、コロナ禍を契機として急速に普及したテレワークについて、その後の対面重視への動きも踏まえつつ、テレワークが組織や労働に与える影響を検討する趣旨のもと開催いたします。

現在では、遠隔と対面をどのように組み合わせていくかが新たな課題となっています。また、デジタル技術や生成 AI の進展は、業務の進め方だけでなく、人材育成、組織運営、コミュニケーション、さらには組織のあり方そのものにも変化をもたらしています。テレワークは、働く個人のウェルビーイング（幸福）やエンゲージメントにも関わるテーマとなっており、人が「どこで」「誰と」働くかという問いも、重要性を増しています。

さらに、働く場所の選択肢が広がる中で、都市と地域の関係や、従来の働き方や生活のあり方にも変化がみられます。テレワークは、単なる在宅勤務にとどまらず、地域との関わり方やコミュニティ形成にも影響を及ぼしつつあり、働き方と地域社会との関係を考える契機ともなっています。

テレワークをめぐる現状と課題、そして今後の可能性について、経営学、経済学、社会学、工学、情報技術、コミュニケーション研究といった幅広い視点から議論を深めてまいります。研究者、実務家、官公庁関係者など、多様な立場や分野を越えた創造的な議論が展開されることを期待しております。

※ご不明の点は第28回大会実行委員会（下記メールアドレス）までお問い合わせください。
taikai@telework-gakkai.jp